

平成 25 年度 島根大学教育学研究科現職教員短期 1 年履修コース 活動報告

I 現職教育支援センター及び教育学研究科現職教員短期 1 年履修コースのメンバー構成

○ 担当教員（現職教育支援センター兼任教員）

役職・所属講座・職名	氏名	専門領域
現職教育支援センター長 人間生活環境教育講座・教授	多々納 道子	家政教育学
現職教育支援センター副センター長 初等教育開発講座・教授	川路 澄人	図工・生活科教育
健康・スポーツ教育講座・教授	平井 章	スポーツ哲学・体育科教育学
心理・発達臨床講座・教授	稲垣 卓司	障害児精神医学・思春期精神医学
初等教育開発講座・教授	富竹 徹	算数科教育学
自然環境教育講座・教授	栢野 彰秀	理科教育学
教師教育センター・教授	権藤 誠剛	教育方法学
初等教育開発講座・講師	熊丸 真太郎	教育経営学

○ 入学生の専攻・コースと指導教員

* 主担当教員

氏 名	所属する専攻・コース	主指導教員	副指導教員
井上 篤子	教育実践開発専攻 学習開発コース	多々納 道子	* 深見 俊崇 加藤 寿朗
恩田 昌子	教育実践開発専攻 学習開発コース	栢野 彰秀	* 富竹 徹 石野 陽子
小室 由希江	教育実践開発専攻 学習開発コース	* 富竹 徹	権藤 誠剛 熊丸 真太郎
竹前 敏昭	教育実践開発専攻 学習開発コース	川路 澄人	* 百合田 真樹人 松本 一郎
三島 康紀	教育実践開発専攻 学習開発コース	川路 澄人	* 深見 俊崇 原 丈貴
北野 真也	教育実践開発専攻 発達臨床コース	平井 章	* 原 広治 稲垣 卓司
八束 佳代	教育実践開発専攻 発達臨床コース	稲垣 卓司	* 樋口 和彦 権藤 誠剛
岩崎 香織	教育内容開発専攻 言語系教育コース（英語教育分野）	多々納 道子	* 猫田 英伸 大谷 みどり
永田 聖子	教育内容開発専攻 芸術系教育コース（音楽分野）	稲垣 卓司	* 藤井 浩基 佐々木 直樹

II 年間スケジュール

月日	行事
4月5日	入学式
4月8日	平成 25 年度現職教員短期 1 年履修コース（第 6 期生）入学オリエンテーション
4月9日	前期授業開始

5月31日	「特別課題研究」の研究テーマ提出
5月28日～7月30日	各自の「特別研究課題」のテーマ発表会
8月10日	島根大学大学院教育学研究科現職教員コース実践報告会 研究概要の発表
10月1日	後期授業開始
11月5日	「特別課題研究」 中間発表会
1月10日	「特別課題研究」の提出
1月31日	「特別課題研究」の要旨の提出
2月中	「特別課題研究」の審査及び試験（口頭試問）
2月4日	「特別課題研究」の最終発表会
2月7日	現職大学院生と島根県現職派遣研修生との研究交流会
3月25日	修了式

III 年間行事のタイムスケジュール

(1) 島根大学大学院教育学研究科現職教員短期1年履修コース実践報告会 (PHOT01)

日時：平成25年8月10日（土）	14:00～17:00
場所：島根大学教育学部棟	517室（多目的ホール）
日程：13:30～14:00	受付
14:00～15:40	研修1 「現職教員短期1年履修コース生の実践・情報交換」
16:00～17:00	研修2 講演「今、教師に求められるもの」
	講師 島根大学教育学部教師教育センター 特任教授 前島根県教育センター所長 三島修治 先生
17:00	閉会行事

(2) 『特別課題研究』中間発表会 (PHOT02)

目的	○ 「特別課題研究」で各自が研究・実践したことを発表し合い、実践した内容を整理したり、さらに深化したりする。 ○ 「特別課題研究」で研究・実践したことをどのようにまとめていくか整理する。
日時：平成25年11月5日（火）	9:30～15:30
場所：島根大学教育学部棟	G27号室

(3) 平成25年度 現職教員短期1年履修コース『特別課題研究』成果発表会 (PHOT03)

目的	○ 「特別課題研究」として1年間研究・実践した成果・内容について発表する。 ○ 成果を広く公開し、多くの示唆を得る場を設ける。
日時：平成26年2月4日（火）	9:20～16:00
場所：島根大学教育学部	25番教室

日程

時間		発表者	
9:20～9:30	開会式		
9:30～10:00	発表①	岩崎 香織	英語科の授業における学習スタイルをふまえた指導法の効果について
10:00～10:30	発表②	三島 康紀	鉄棒運動における「動きの言語化」を引き出す指導法のあり方
10:30～11:00	発表③	井上 篤子	生徒の学習意欲と思考力を高める社会科の授業づくりの研究 ～協同学習の実践をとおして～
休憩			
11:10～11:40	発表④	竹前 敏昭	教科横断的な教育の実践にむけた宇宙を活用した教育法

11:40～12:10	発表⑤	八束 佳代	重度・重複障害のある子どものコミュニケーション能力の評価方法と発達段階に合わせた指導内容表の開発
昼食・休憩			
13:20～13:50	発表⑥	永田 聖子	地域の音楽としての童謡の教材化と授業実践 - 島根県石見地方の詩人・佐々木寿信の詩による童謡に着目して -
13:50～14:20	発表⑦	小室 由希江	算数学習の理解を確かなものにする指導についての研究 - 低学年における整数の具体的モデルを使った活動 -
休憩			
14:30～15:00	発表⑧	恩田 昌子	人と人との協同的なかわりの中で思考し行動する授業構成の在り方 ～数学的な考え方の育成を通して～
15:00～15:30	発表⑨	北野 真也	すべての生徒の人間関係づくりを深めるための支援 - 中学校通常の学級における特別支援の在り方 -
15:30～15:50	指導・ 講評	吉田裕三先生：元島根県出雲市立北浜小学校長 井田博之先生：元鳥取県西伯郡伯耆町立岸本中学校長	
15:50～16:00	閉会式		

IV 本コースの一年の歩み

○ 本コースの特色

本コースでは1年間の在学、研修によって「修士（教育学）」の学位と専修免許状の取得が可能である。その特色として、

- ① オーダーメイド型のカリキュラムと② 複数指導教員による「特別課題研究」の指導がある。
- ① オーダーメイド型のカリキュラムでは、以下の表1のように自由選択科目8単位分を所属する専攻・コースの別なく、履修したい講義を受講し、単位を取得することができる（一部臨床心理コースのものを除く）。そのため、院生自身の興味関心や指導教員のアドバイスにより、幅広い学習を行うことができる。

表1

授業科目の区分	教育実践開発専攻	教育内容開発専攻
コース共通科目	6	6
選択分野（コース）科目	16	16
自由選択科目	8	8
合計	30	30

- ② 複数指導教員による「特別課題研究」では、2つの特徴がある。一つ目が一人の現職院生に対して、研究テーマに沿った研究指導教員2名と短期1年履修コースを担当する現職教育支援センターのメンバーから1名の計3名で指導する体制である。例として、中学校の社会科教員が院生となり、本人の研究テーマが「学級内における特別支援の必要な生徒に対する指導法」であった場合、特別支援教育を専門とする指導教員と社会科教育を専門とする指導教員の2名が指導する体制となる。現職教育支援センターからの指導教員は、そうした教員間のマネジメントを主に担当する役割である。二つ目として、既述した指導体制のもと「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」（計8単位、表1の選択分野（コース）科目の16単位に含まれる）の内容である。2名の研究指導教員による指導の下、多くの院生が自分の研究テーマに関しての先行研究の渉猟、研究テーマ・課題の抽出、授業実践のための研究、授業実践、授業の評価、研究テーマの再検討を行うことになる。こうした指導体制、カリキュラムの下、1年間という短い期間ではあるが、研修の内容を深めることが可能なシステムを構築している。

（文責：現職教育支援センター副センター長 川路 澄人）



PHOTO1 : 現職教員短期1年履修コース実践報告会



PHOTO2 : 『特別課題研究』 中間発表会



PHOTO3 : 平成25年度 現職教員1年短期履修コース『特別課題研究』 成果発表会